

# 電波政策懇談会 第8回会合 議事要旨

## 1 日時

平成21年7月3日（金） 17時00分－18時15分

## 2 場所

虎ノ門パストラルホテル 新館4階 ミント

## 3 出席者（敬称略）

（座長）

土居範久（中央大学）

（座長代理）

村上輝康（（株）野村総合研究所）

（構成員）

麻倉怜士（津田塾大学）、岩浪剛太（（社）デジタルメディア協会）、熊谷博（（独）情報通信研究機構）、黒川和美（法政大学）、後藤幹雄（日本文理大学）、庄木裕樹（土井構成員代理）（（株）東芝研究開発センター）、徳田英幸（慶應義塾大学）、所真理雄（（株）ソニーコンピュータサイエンス研究所）、服部武（上智大学）、林俊樹（メディア・コンサルタント）、廣瀬弥生（国立情報学研究所）、藤原洋（（株）インターネット総合研究所）、森川博之（東京大学）、岡本芳郎（山本構成員代理）（（株）トヨタ IT 開発センター）、若尾正義（（社）電波産業会）

（総務省）

桜井総合通信基盤局長、吉田電波部長、安藤総務課長、渡辺電波政策課長、新田電波政策課企画官、佐々木基幹通信課長、坂中移動通信課企画官、瀬戸移動通信課推進官、鳥巢衛星移動通信課長、杉浦電波環境課長、白江国際周波数政策室長、山内電波利用料企画室長

## 4 議事

1. 開会

2. 議題

(1) 電波政策懇談会 報告書（案）について

3. 閉会

## 5 質疑応答

事務局から報告書（案）について説明を行い質疑応答及び意見交換が行われた。報告書（案）について、示された案を最終報告書とすることとした。

会合の中で構成員から、以下のようなコメントがあった。

○非常に内容が濃く、これをどう実施に移すか、これから本当の実行ステージに入ってやることが重要。

○章タイトルについて改めて見ると、目次を読んで内容を読んでみようかなと言うところまでなったかなという印象。

○大変よく書かれていると思う。今後はワイヤレステストベッドなどの各プロジェクトをコアとして、新産業創出のための施策を重点的に推進することが重要。

○電波を使えば我々の生活がどのように便利になるかということはイメージしやすいが、新たな電波利用をどうやって産業という形に持って行くかという部分については、すごく難しいことだと今回

の検討を通じて感じた。

- 国際的な展開活動なども非常に大切だが、情報格差のある地方に対する啓蒙活動なども重要。
- 将来像についての議論の中で検討してきたことが、今後実現されるよう努力することが重要。
- 目次案が優秀、明るいイメージが出ているのではないかと。また、ソフトウェア無線やコグニティブ無線等の新しい技術や明るい話題がきちっと書かれていて、今までのような周波数の有効利用だけのものではないので非常によかったのではないかと。新しい価値の創出のためにはいろいろな人がやれることが重要なので、「2020年になくなるもの」などのように新しいものが、小さな会社でも実現できるような枠組みが出来れば良いと思う。
- 専門性の広がり、共通した方向性の両方をお持ちのメンバーで、非常に質の高い、ほとんど無駄のない議論が一直線に進んできたと感じている。
- 日本では技術や産業を創出するといった時には、どうしても技術に固執して議論がおわってしまうが、それはもったいない。やはりビジネスモデルというところまで議論していかなければいけない。
- 電波の価値というのはなかなか見えないので、価値の理解をどう広げるか、コンセンサスをどう作っていくかというところが重要。興味を持続させ理解を得る意味でも教育が非常に重要。
- ここで予言とされているものもどんどん実現されていくように、様々な取り組みを進めていくことが重要。
- 技術と国際展開とビジネスモデルの3つの観点からバランスよく書かれた報告書になったのではないかと。
- 森川先生のWGにも非常に尽力いただいた。報告書も、視点がはっきりしていて、具体的なシナリオが出ている。キャッチーなタイトルもよい。課題としては、情報通信産業は今後も技術革新をしていく必要があること、また、情報通信産業が新しい産業を興す道具であるとの観点から、その役割をはっきりさせる必要があることなどが考えられる。
- 電波利用システム将来像検討部会についても、電波利用の将来像について活発な議論をしていただき大変感謝している。懇談会としても、ITSなどについて、大学の研究室などで研究しているだけでは、その重要性はわからないので、今回議論に参加したことによって、そういった部分も理解することができたのではないかと。思う。
- やるべきことが体系的にわかりやすく書かれたのではないかと。社会環境に合わせて新しい技術を開発し、新しい製品・サービスを作っていければと思う。
- この報告書で書かれている将来が実現するためには、単に標準化するだけでなく、ビジネス面や研究開発面など、いろんな側面があり、それらについても推進していくことが重要。

## 6 今後のスケジュール

- ・とりまとめられた報告書については、速やかに報道発表する予定である旨、連絡があった。

以上